

学校法人神戸滋慶学園 姫路医療専門学校
2024年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時: 2024年6月23日(日)14:00～15:30
2. 開催方法: オンライン(ZOOM)
3. 参加者

学校関係者評価委員

浅沼 由紀 業界関係者(一般社団法人兵庫県作業療法士会 理事)
腹巻 陽子 業界関係者(一般社団法人兵庫県言語聴覚士会 副会長)
正木 昭次 業界関係者(一般社団法人兵庫県臨床工学技士会 参与)
田中 種男 地域関係者(姫路市城巽地区自治会 顧問)
奥見 俊美 保護者代表(作業療法士科3年学生保護者)
大塚 将史 卒業生代表(作業療法士科2020年度卒業生)

学校側参加者

笠原 由美子 姫路医療専門学校 事務部長
今在家 信司 姫路医療専門学校 教務部長
竹内 美保 姫路医療専門学校 作業療法士科 副学科長
帯包 静香 姫路医療専門学校 言語聴覚士科 副学科長
三村 佳祐 姫路医療専門学校 臨床工学技士科 副学科長
荒木 秀幸 姫路医療専門学校 救急救命士科 副学科長

欠席者:学校関係者評価委員

瀬戸川 孝 高等学校関係者(元兵庫県立松陽高等学校校長)

※6月25日(火)に自己点検・自己評価のご意見ご評価を頂いた。

3. 内容

- (1) 委員のご紹介
- (2) 令和5年度の自己点検・自己評価報告
- (3) 質疑応答・講評

4. 会議の概要

- (1) 委員のご紹介
- (2) 令和5年度の自己点検・自己評価報告

令和5年度本校が実施した自己点検・自己評価の内容を下記10項目について項目ごとに説明した後、各委員から質疑応答、ご意見を頂き、評価をして頂いた。

1. 教育理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援

6. 教育環境
7. 学生の募集と受入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

(3) 質疑応答・講評

浅沼委員: 地域貢献や社会貢献事業を推進されているのは、とても良いことだと思います。様々な方と関わ
ることは、学生にとって良い経験になり、社会に出てからも役立ちます。参加した学生から情報
を聞き取るようなことはされていますか。

→ 笠原事務部長: 参加した学生が体験談の発表等をしております。ただ学生が自主的に参加し
たものについては個別での情報収集となっています。

田中委員: 少人数での授業や意見交換は良いように思われがちですが、多様な意見や少数意見が出にく
いという欠点があります。そういった意見を先生から提示していただくことで、その欠点が解消で
きればと思います。国際教育については、学生が海外に行くだけでなく、海外からの留学生を
受け入れることも大切だと思います。留学生を受け入れることは可能ですか。

→ 笠原事務部長: 受け入れは可能ですが、国家試験といったハードルがあるため、今まで希望
者はいませんでした。

正木委員: 学生の確保については、学校だけではなく、業界全体で取り組む必要があります。現場でも臨
床工学技士の人材確保は緊急の課題です。学校には職業の認知度向上も含め、各業界団体
と連携・協力していただければと思います。

学生の表現力の乏しさは、現場も実感しています。「平気にしている」＝「平気」とは限りません。
学校では昔に比べて叱咤激励が難しい状況だと思いますが、その分臨床実習に出るとかなりの
の負荷を感じている学生が多いように思います。これまでは実習を乗り越えた学生は適性があ
ると思っていたが、今はいかに挫折しないかを実習を終えるかが基準となっています。実習中
の学生のフォローについては、どこまで実習先がすべきでしょうか。

→ 今在家教務部長: 医療職を目指す学生は根が優しい学生が多く、自分を表現できないことで
ストレスを抱え、気が付いた時にはすでに体に不調をきたしている場合があります。学校では
個別の面談だけでなく、普段の学生生活の様子を見るようにしています。

→ 正木委員: そのような場合、何か兆候はあるのでしょうか。

→ 今在家教務部長: 感覚として、「大丈夫」という学生ほどストレスを抱えていると感じています。
臨床実習中に教員が一度訪問して学生の様子を伺うだけでは不十分だと感じています。例え
ば、IOT を活用して一週間ごとに実習指導者と教員が学生の情報を共有し、今後どう指導して
いくかを協議して頂くなどが必要だと考えています。あらためて実習指導者の方とご相談させ
ていただければと思います。

大塚委員: 救急救命士科の新設は、同窓生でも知らない人がいます。卒業生に認知してもらうことは、業界
や地域での認知度向上にも繋がると思います。

クラスリーダーの育成について興味があります。クラスリーダーがうまく機能した場合、学習面に
おいてどれくらい影響があるのでしょうか。数値化はされているのでしょうか。

→ 笠原事務部長: 救急救命士科の新設を広く卒業生の方に知って頂くようにしたいと思います。
クラスリーダーについての成果の数値化については検討課題です。

腹巻委員: 6月22日の言語聴覚士学会では、スタッフとして学生さんに協力していただき、とても助かりまし

た。スムーズに参加者の誘導をしてくれたお蔭で学会運営が円滑に進みました。学生さんは演題を聴講する時間もあり、在学中に学会への参加は良い経験になったのではと思います。

臨床実習においては、現場でも制限が多くなったと感じています。卒業後、実習感覚で現場に入ると非常に大変だと感じると思います。学校には、卒業後も相談できる場所として卒業生のフォローをお願いしたいと思います。そのためにも現場と学校が連携はる必要があると思います。在学中に「セルフマネジメント」や「セルフコーチング」について、少しでも学ぶ機会があればいいと思います。自分自身を内省し、奮い立たせることができれば、社会に出ても力を発揮できると思います。授業としてでなくてもいいので実施していただければと思います。

→今在家教務部長:学会での学生の活動を評価して頂けたこと、大変嬉しく思います。

学生に対して、臨床実習と実際の現場が違うということを伝えるのは重要です。これまで専門学校は業界が求めることを実行してきましたが、時代の流れや学生の変化によって今までの方法ではうまくいかなくなってきていると感じています。業界も時代の流れに合わせて変化されていると思いますので、学校と業界が情報交換し、相互に働きかけができればと思います。

奥見委員:娘は今、臨床実習中で大変なことも多いようですが、先生方からのアドバイスや友人たちと励まし合いながら頑張っています。引き続き、よろしくお願い致します。

笠原事務部長:本日はお忙しい中、ご出席賜り、また貴重なご意見を、ありがとうございました。

以上